

ロボット産業拠点の形成に向けた主な意見等

1. ロボットの取組を進めるに当たっての課題

課題1: 利用者のニーズにマッチしたロボットの開発(特にサービスロボット)

- ・ 技術者主導で開発が進められていることが多い。インタラクションデザイン主導で進めるべき。
- ・ 医療・介護現場の意見を基に開発されているとは言えない。

課題2: ロボットの効率的な開発

- ・ 各メーカーが、差別化への寄与が少ない細部についても開発を行っており、コスト増となっている。
- ・ 利用者の要求水準と、現実の技術、価格との乖離が大きい。
- ・ 地域ごとに異なる基準等に対応するため、コストが掛かる。

課題3: 高度技術者、特にシステムインテグレータの育成等

- ・ ロボットを使いこなす「設備メーカー(システムインテグレータ)」の不足、レベルアップが急務。
- ・ ロボット開発技術者の育成。
- ・ システムインテグレータによる海外向け設計、輸出手続きを支援する仕組みの構築。

課題4: 新たなロボットを市場に普及させるビジネスモデルの構築

- ・ ビジネスモデルの検討なく、単体で売れるロボットを開発しようとする傾向が強い。
- ・ 研究だけではなく、実用化・事業化を重視し、企業の枠を超えた組織づくり。
- ・ サービスロボットでは、販路を確立しビジネスとして成立するための道筋が不透明。

課題5: 開発品に対する円滑な実証評価及び安全性評価の仕組み

- ・ 医療・介護現場において、ロボットに対する臨床・実証評価の質が低い。
- ・ 人と共存して動作するための機能安全評価について、時間とコストを大きく費やしている。
- ・ 利用者との接点がなく、製品をブラッシュアップするための意見を抽出できない。

課題6: 利用者側におけるロボットの理解醸成、導入促進

- ・ ロボットのサービス価値が、客観的に示されていない。
- ・ ロボットの利用経験がない利用者に対し、ロボットに対する正しい認識・知識の啓発が重要。
- ・ 開発当初は製造台数が少なく高価なため、利用者にも普及可能な価格設定が困難。
- ・ 中小企業にとって、設備投資(ロボットの導入)のための費用負担が大きい。

2. ロボット産業拠点の形成に向

① 開発者と利用

- ・ コミュニティ単位(ワーキング
- ・ プロダクトデザインやインタラ
デザインコンペティション開
- ・ 自治体が、各事業者(中小
- ・ ロボット関係者の交流の機会

② 開発の支援

- ・ 製造現場において人と共存
- ・ 企業が世界に通用する共用
- ・ 中小企業が担当している部

③ 開発・実証拠

- ・ 開発実証評価拠点を設立し
- ・ 実証拠点としての長寿ロボット
- ・ ロボット実証・導入に係る手
- ・ 開発者と利用者がともに議論
- ・ 規制緩和が可能な体制を作

④ 利用者におけ

- ・ ロボット機器の導入に積極的
- ・ 導入を促進する予算・税制・

⑤ イベントの誘致

- ・ 各種分野における最先端の
- ・ ロボカップ2017世界大会を